

# 道徳教育全体計画

学校教育目標 **ただ この時に燃えよ -顔はひまわり、心は思いやり-**

## 目指す生徒像

**Study** 目を輝かせて学ぶ **Sport** 笑顔で逆境を楽しむ  
**Spirit** 寛容で正しく優しい **Smile** 爽やかに挨拶できる

## 生徒の実態

- ・自分から行動しようとする生徒もいるが全体的には受け身の生徒が多い。
- ・自分の考えや気持ちを人前で話すのが苦手な生徒が多く、やや消極的である。
- ・朝教室に入る際、元気に挨拶するよう、また、それに対して元気な挨拶を返すよう、全校で取り組んでいる。

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学校教育法
- ・秋田県学校教育の指針
- ・潟上市の教育目標

## 時代や社会の要請

- ・グローバル化や情報化、技術革新などのめまぐるしい社会の変化にも対応できる「生きる力」を育成する。

## 学校、学級における教育環境の整備計画

- ・学校全体で道徳科を核とした授業研修を推進し、全教育活動を通じての道徳教育の充実に努める。
- ・「顔はひまわり 心は思いやり」を合い言葉に、聞き手に顔を向けて聴いたり、他者の考えを寛容に受け止めたりする等の学習習慣の定着に努める。
- ・教室に「今月の道徳」を設置し、授業の事前事後の指導の充実に努める。

研究主題：確かな学力を身に付けていく、勉強好きな生徒の育成  
 ～一人一人の生徒が主語になれる授業を通して～

## 学校の重点内容項目

B (6) **思いやり、感謝**      C (15) **よりよい学校生活、集団生活の充実**      D (22) **よりよく生きる喜び**

## 各学年の重点内容項目

A (1) **自主、自律、自由と責任**      B (9) **相互理解、寛容**      A (4) **希望と勇気 克己と強い意志**

1年生の目標	2年生の目標	3年生の目標
「礎」	「挑戦」	「Ambitious」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな仲間のよさや持ち味などを分かり合えるよう、仲間と関わり合える場面や機会を設定する。</li> <li>・自己決定する機会を多く設定し、成長を認め、励ますことで自己肯定感を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と異なる個性や考えを受容し、認め合い、分け隔てなく協力し合う。</li> <li>・生徒の自治的な活動を通して自己肯定感や自己有用感が高まるよう、努力を見取り、認め、励ます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習慣を見直し、夢や目標を達成するための自信につなげる。</li> <li>・一人一人のよさを認め合い、温かな人間関係づくりを目指す。</li> <li>・主体的な取り組みを通して、成就感・達成感を味わわせる。</li> </ul>

## 学校や地域の実態と課題

- ・核家族が多く、地域住民同士のつながりが弱い。
- ・地域の人材を積極的に活用したり、PTA活動を充実させたりすることで、学校と保護者、学校と地域との連携を密にしていこうとしている。

## 教師・保護者の願い

- ・礼儀正しく、場にふさわしい発言や身なり、所作のできる生徒
- ・「なりたい自分」の実現に向けて、一歩ずつでも前進しようとする生徒
- ・自他の言動を内省し、他者の気持ちに寄り添える生徒
- ・自他のよさ、違いをそれぞれの個性として受け止め、共に活動できる心の余裕をもつ生徒
- ・得意なところだけでなく、定着が不安なところにも取り組む家庭学習が習慣化している生徒
- ・家族や地域の一員として周囲の期待を踏まえ、行動しようとする生徒
- ・他人を批判して満足するよりも、自分で改善できる点を見付けようとする生徒

## 総合的な学習の時間

- 表現・創作活動、職場体験やCSW等の「天南GP」を通し、充実感をもって問題解決に取り組む態度を育てる。

## 要としての道徳科の指導方針

- 学年毎に、重点内容項目に適切な時間を配当するなどして年間指導計画の改善に努め、計画的に道徳の授業を実施する。
- 教師と生徒との信頼関係や生徒相互の温かい人間関係を育むとともに、生徒が自己への問いかけを深め、未来に夢や希望をもてるようにする。
- 各教科等や体験活動等との関連をもたせたり、複数の教職員や家庭、地域社会の協力を得たりするなど、多様な指導を工夫する。

## 特別活動

A	学級活動	・よりよい人間関係を築き、学級や学校におけるよりよい生活づくりを目指して自ら諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度を育てる。
B		・集団や社会の一員としてよりよい学校生活を目指し、協力して諸問題について話し合い、その解決を図ろうとする自主的・実践的な態度を育てる。
C	学校行事	・集団への所属感や連帯感を深め公共の精神を養い、協力して学校生活を充実・発展させようとする自主的・実践的な態度を育てる。

## 各教科

国語	日本語の美しさや文学の奥深さに触れることを通して、我が国の伝統や文化などを尊重し、大切にしていこうとする心情を育む。
社会	人々が社会の問題と向き合い、助け合いながら根気強く課題解決に取り組むことの大切さを学び、社会貢献しようとする心情を育む。
数学	ものごとを順序立てて考えていく能力や、既得の考え方を活用し課題解決する態度を養う。
理科	自然を愛し、自然に感動する豊かな心や生命を尊ぶ態度を養う。
音楽	協力して合唱(合奏)を作り上げていく成就感を味わわせ、豊かな感性を育む。
美術	発想したことを形にする発想力や想像力、作品を完成させていく粘り強さを養う。
保体	仲間を尊重し、認め合い、協力し合う態度を養う。
技・家	生活や社会の中から課題を見つけ、課題を解決し、実践しようとする態度を養う。
外国語	世界の中の日本人としての自覚をもち、日本や外国の言語や文化に対する理解を深めようとする態度を育てる。

## 特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導との関連

- 道徳についての研究の成果をまとめた「The天南道徳」を共通理解し、基本的な指導については共通実践する。
- 「ローテーション道徳」を取り入れ、学年部の教職員が全ての学級をローテーションで指導し、生徒たちが指導者の多様な価値観に触れることができるようにする。
- 開校以来、重点としてきた環境教育や福祉教育、天南ソーランなどの表現活動を道徳教育の視点で見直し、それらの取組の意義を再確認する。

## 日常生活における指導や生徒指導との関連

- ・互いのよさや個性を尊重し、認め合える支持的な風土を創り上げる。
- ・「信じて、見守り」「認めて、褒めて、励ます」指導を重ねることにより、自治の精神を養い、自己肯定感を育む。

## 道徳教育の基盤づくり

### 学区内の小学校との連携

- ・学区内の2校の小学校との情報交換を密にし、生徒の実態を把握する。
- ・相互授業参観や互いの授業研修会へ参加するなど、情報交換などを行うことを通して、児童生徒の発達段階に応じた系統的・計画的な指導について共通理解を図り、共通実践を重ねる。

### 家庭・地域社会との連携

- ・道徳教育についての情報を家庭に周知し連携を図って指導や支援に当たる。
- ・福祉施設や支援学校などとの交流活動等を通して実感を伴う学習を展開する。